

# COP28：化石燃料からの脱却—transition away



COP28  
UAE

2023年11月30日～12月13日まで  
UAEドバイで開催

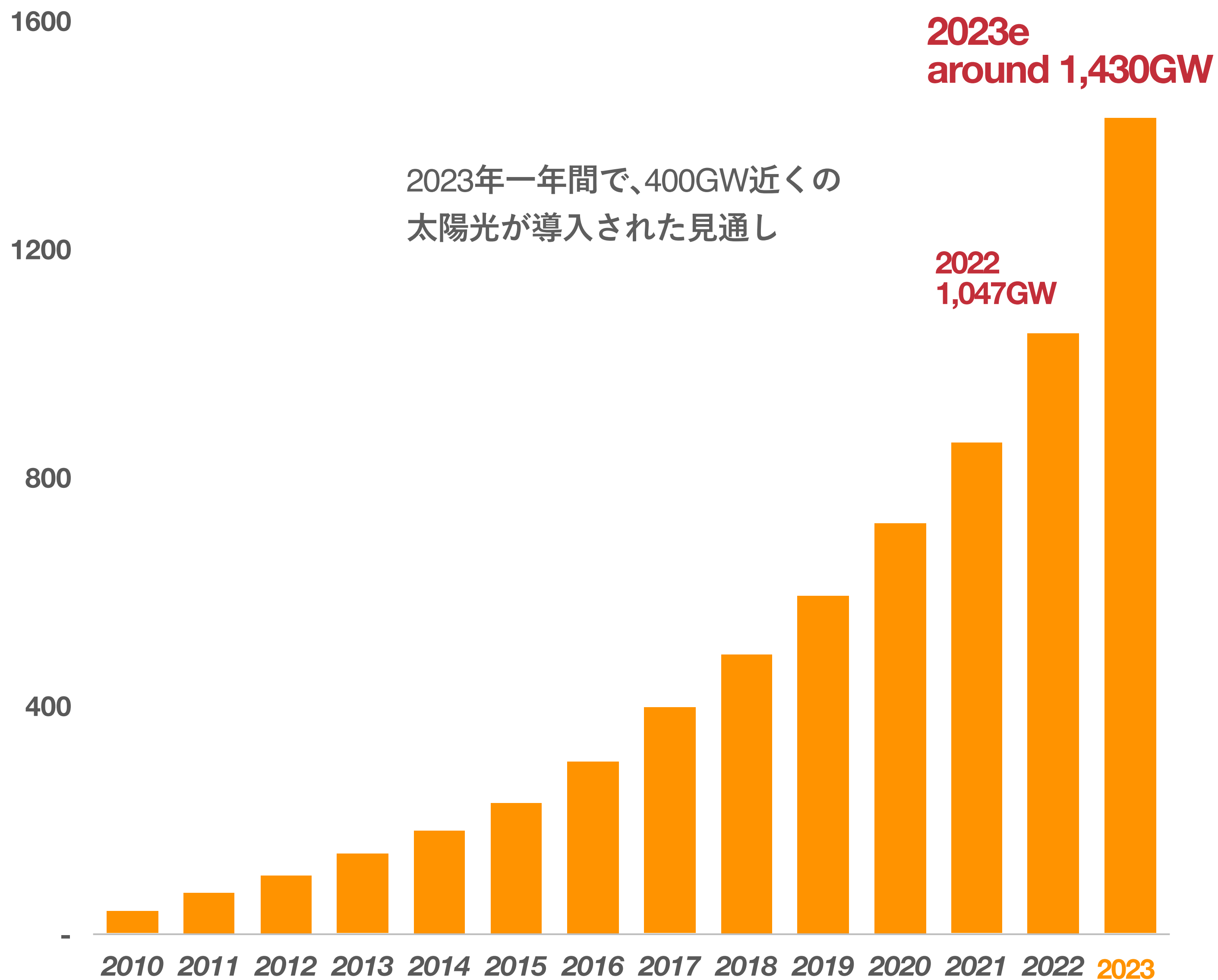
- ・すべての化石燃料からの移行
- ・30年までに世界の再生可能エネルギー容量を3倍に、エネルギー効率を2倍に
- ・35年までに世界全体の温室効果ガス排出量を19年比で60%削減

＊現行の日本の2030年に2013年比46%削減は、2019年比では37%削減に留まる。

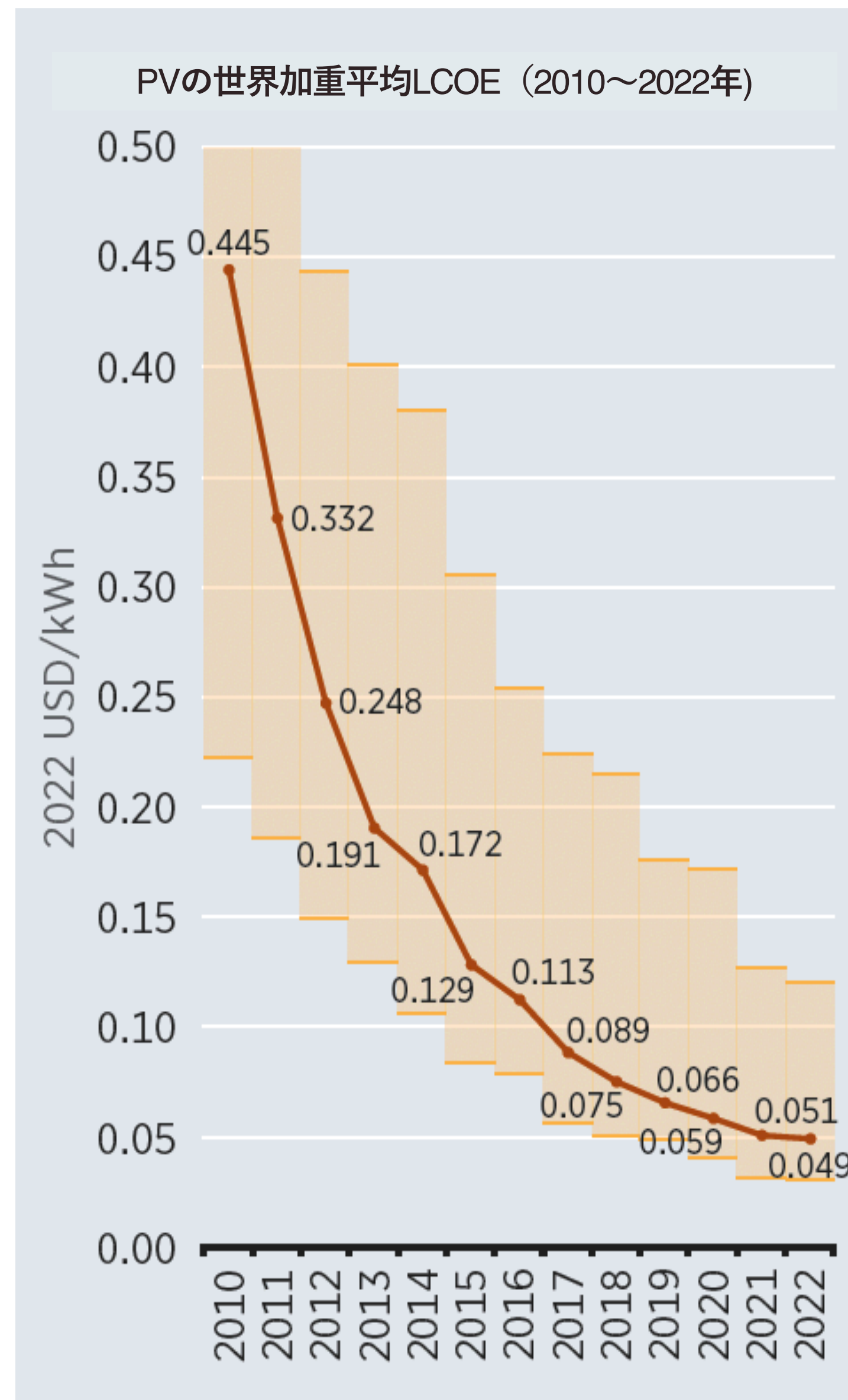




# エネルギー転換：世界の太陽光発電の拡大とコスト低減

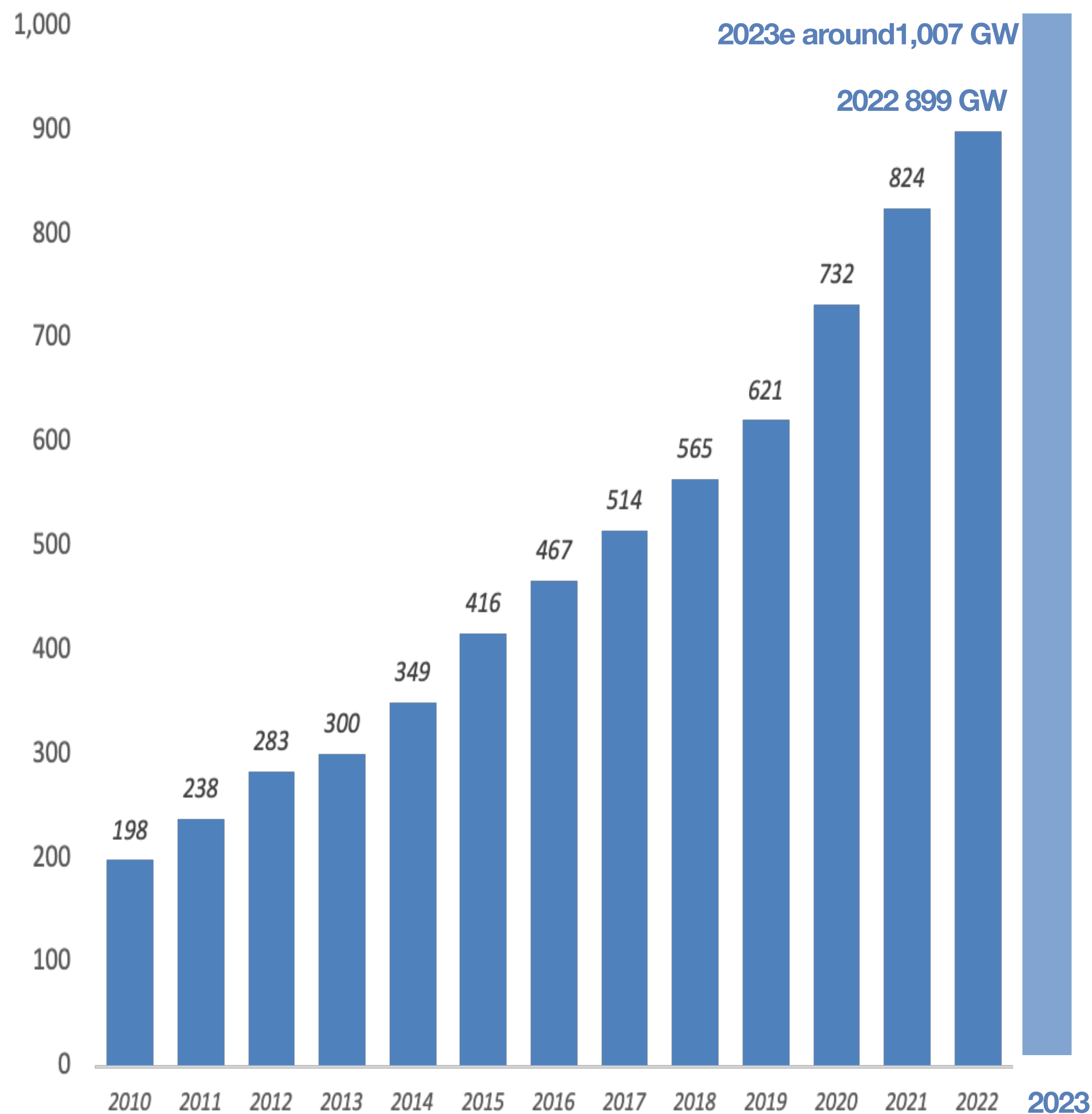


出典：IRENA (2023), Renewable Energy Capacity Statistics 2023 + IEA Renewables 2023 + news reports

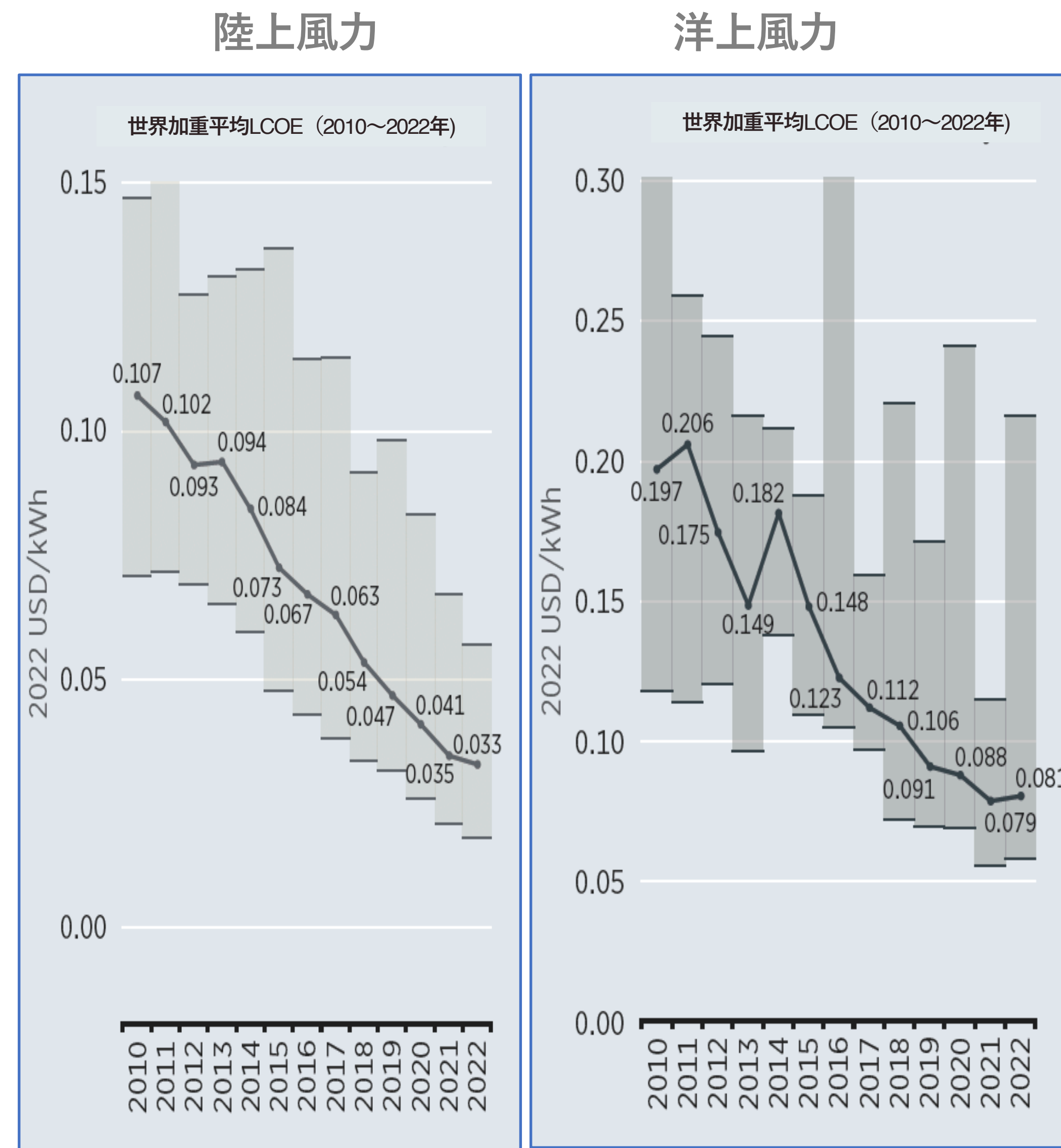


出典：IRENA (2023), Renewable Power Generation Costs in 2022

# エネルギー転換：世界の風力発電の拡大とコスト低減

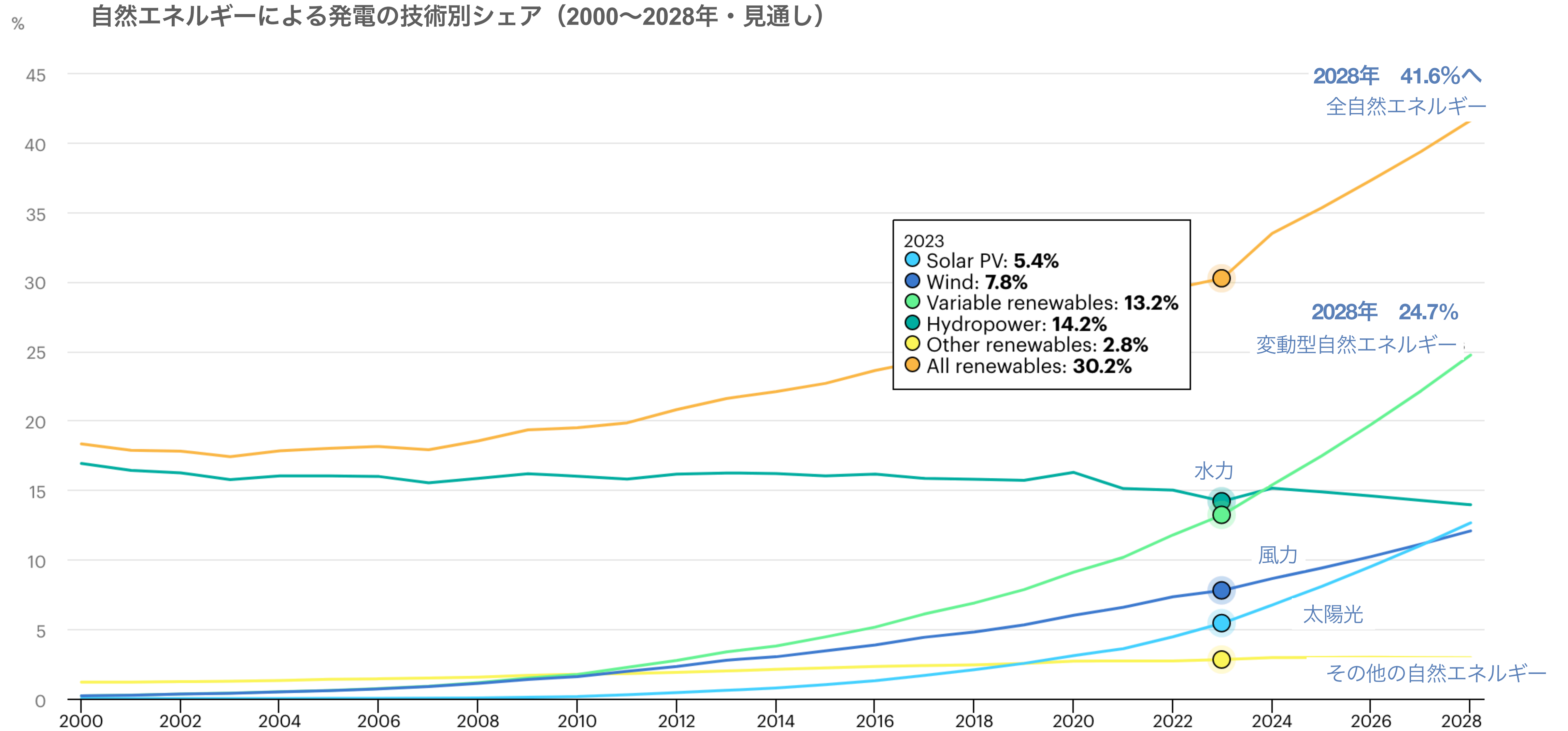


出典：IRENA (2023), Renewable Energy Capacity Statistics 2023 + IEA Renewables 2023 + news reports



出典：IRENA (2023), Renewable Power Generation Costs in 2022

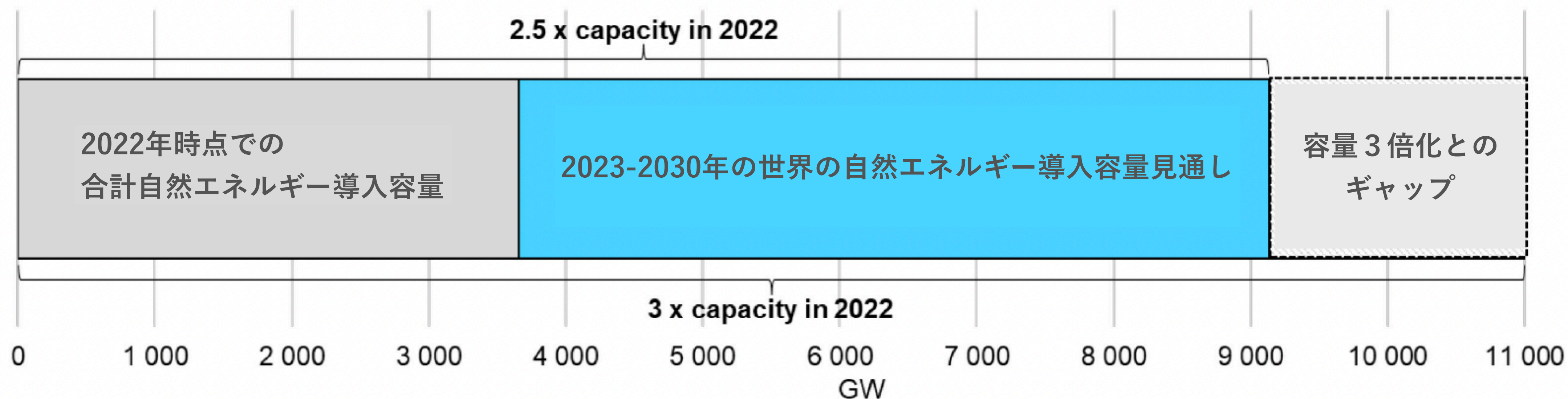
# エネルギー転換：世界の自然エネルギー発電量と内訳・見通し





# エネルギー転換：世界の自然エネルギー容量を3倍に

自然エネルギー：2022年から2030年の拡大見通しと世界全体での容量3倍化とのギャップ



IEA. CC BY 4.0.

# 先進国の方向性ーG7

国名	脱炭素電源の発電量シェア			電力部門の目標	
	2021年 (%)			2030年の REシェア目標 (%)	2035年
	RE	原子力	合計		
カナダ	68	14	82	—	脱炭素化
フランス	24	67	91	38	—
ドイツ	42	12	54	80	—
英国	42	14	56	—	脱炭素化
米国	21	19	40	—	脱炭素化
イタリア	42	0	42	70	—
日本	22	6	28	36-38	—

カナダ：現時点で自然エネで7割を供給

フランス：原発中心+自然エネを合わせて、すでに9割が脱炭素

ドイツ：自然エネで2030年80%

英国：洋上風力発電開発が大規模に進む一方で、現在11基稼働している原子炉のうち10基は2028年までに廃止予定。

米国：「インフレ抑制法」により、太陽光・風力拡大が加速中。原発は約20%のまま拡大の見込みなし。

イタリア：自然エネ2030年70%

出典：自然エネルギー財団「「エネルギー安全保障の現実 自然エネルギーが危機を克服する」（2022年7月5日）ならびにEMBER “EU Power Sector 2030 Target Tracker”（2022年10月最終更新・2023年2月2日アクセス）ほか各種資料を基に作成

フランス以外の5か国においては2035年に自然エネルギーが電力の70%、80%程度、国によっては、それ以上を供給することになると見込まれる。日本との差は更に拡大。



# 政府の2050年戦略：自然エネルギーは50～60%。原発と「ゼロエミ火力」で40～50%

